

一般 水害対策を問う

一 西下 敦基 (市民ネット)



多くの市民の不安の声をお聞きした水害について、少しでも被害軽減や不安解消になるよう質問した。

Q 令和元年の大雨では多くの浸水被害があり河川の浚渫・拡幅などの対策が行われたが、どれほど浸水軽減になったか市民が安心できるよう、他市で行われているようなシミュレーションを行い説明できないか。

A 国では河川整備計画の進捗状況を公表しており、事業効果の周知方法などについて国と相談し、市でも周知していく。

Q 流域治水対策として、ため池の活用などで被害軽減できるが、根本的には河川の流量向上が必要である。牛淵川の江川接続地点から下流の国安までの約5kmの堤防内部の片側を直角に変えるなどの改良をして水害をなくすような提案はできないか。

A 堤防の強度や管理方法など課題が多い。河川の整備については、整備計画に基づき国と連携していく。



牛淵川 (赤土地内で撮影)

Q 平川地区は水害時に避難できるところが少ないため、赤土の山地を開発して命山にするような検討はできないか。

A 台風や大雨時の避難については分散避難をすべきとの考えから、地域の公会堂や公民館、親類、友人宅へ避難するよう周知しており、現段階では命山の整備は考えていない。

他に「ふるさと納税での増収を目指して」、「菊川市都市計画マスタープランの活用」について質問しました。

一般 浜岡原発再稼働と静岡県との連携について

一 横山 隆一 (日本共産党)



長谷川市長は、県や近隣市との連携協力が必要としている。市民に関心の高い浜岡原発再稼働問題があり、現在、新しい規制基準に従い、適合性審査が進められている。川勝静岡県知事は、「使用済み核燃料の処分もできない状況であり、再稼働はあり得ない」というコメントを発表している。

Q 広域避難計画の実効性など、県・近隣市とどう連携をしていくか。

A 浜岡原子力発電所安全等対策協議会でも防災対策の強化などを国・県に要望している。今後実効性を高めるよう取り組んでいく。

Q 浜岡原子力発電所安全等対策協議会における事前了解についての考えは。

A 最低でも御前崎市周辺4市の意見は尊重されるべきと考えている。

Q 市民の意向を正しく把握するには、市民アンケートや審議会を

設置し判断すべきだと考えるが。
A 市民の代表者である議会の意見を尊重すべきと考えている。

Q 菊川市議会では、平成27年に国と事業者に対し「再稼働の是非は3つの条件が確実に実施され、市民理解がなければ再稼働は認めない」という意見書を提出しているが見解は。

A 議員の皆様が国へ提出したものであり重く受け止めている。

他に「暮らし優先のまちづくり」、「菊川型農業の活性化」について質問しました。

